

不登校に悩む保護者支援サポーター養成講座 受講者アンケート（感想部分抜粋）

○ 私は不登校当事者の親という立場からこの養成講座に参加しました。親としては、一生懸命育ててきたつもりですが、自分の正しさを子どもに押し付けていただけなのかなあと感じる事が多くあります。そう思わされる中で一番印象に残ったのは、不登校の悩みを語り合う会に参加した方が、子どもに正しいと思って言ったことを後から変えてもいいんだという感想を聞いて、言ったことは必ず守らなければいけないという子育てをしてきたので、自分自身の子育てが楽になったことが心に残りました。

○ 今までにもセミナーなどを受講したことがあり、知っている話もありましたが、知っているつもりでも出来ていなかったこと、確信したことも沢山ありました。同じ話でも何度も聞くことが大切で、聞くたびに心に余裕ができていく気がします。余裕ができれば対処できることも増えていくと思いました。「練習をした分だけ上手になる」「怒りの根源・根底にある事実を探す」子どもに対して「私はこういうつもりで話したんだけど、伝わってなかったね」と話をする事ができるようになり、無用なケンカを避けることができるようになりました。

○ 今回受講させて頂いて、人の話は最後まで聞く、人の話を否定しない・肯定しない・論評しないということがとても大事だということ、固定概念を持たずに、つい自分が正しいと思うなどの思いの癖を取り去ることなど、人と接する上でとても大事なことを改めて再認識することができました。この受講期間中に子どもが学校に行きづらくなるということがあり、その中で子どもと接する上で、私自身の価値観を押し付けているのではないかと、子どもに起こったことに対して親が動くのは子ども自身にとっていいことなのか、子どもが考えてそのストレスを解決する力、乗り越える力を奪ってしまうのではないかと悩みました。そんな中で感じたことは、不登校になる子どもは、学校に行きたくないのではなく、行きたいと思っているということです。ただ、今の日本の教育システムでは、不登校になってしまった子どもの学びたい、学校に行きたいと思っている気持ちに対しての受け皿がないのではないかと、又あったとしても余り認知されていないのではという疑問が湧きました。私自身がもっとそういったところの情報を得て、提供できればという思いになりました。

○ 人に寄り添うことのポイントをいくつも教えていただき有難うございました。人との違いを受け入れることの大切さ、自分の確証バイアスを確認すること、傾聴の姿勢についてなど。自分にとって大切な講座になりました。自分という人間がいかに凝り固まった気持ちで子育てをしてきたのか、深く見直すことができました。今では子ども達も大人になり、各々自分の道を歩き始めています。いつも心に問題を抱えながらこれからの人生を歩むことでしょう。私の子育てはこれからもずっと続き、まだ終わっていないと思っています。でも、これまでとは違って自分の子どもだけでなく、私と同じように悩みをもって子育てをされている方に、一緒に考えるといった形で寄り添っていけたらと考えています。その為にもNPOの方々とは行動を共にして、勉強と

ボランティアに取り組みたいと思っています。知人のスクールカウンセラーの方に、傾聴できる人は心が幸せな人でなくてはと言われたことがあります。これはこの講座のテーマでもあるので、これからも心に留めておきたいと思っています。

○ 毎回、どのような話が聞けるのか楽しみで参加させていただきました。“寄り添う”ことは理解していたのですが、“話をゆっくり最後まで聞く”ことも理解していたのですが、私の中でまだまだしっかり出来ていないと感じました。不登校に悩む保護者の方の話を聞く機会もあり、考えも見方も変わった私が居ることは、私自身成長したかなと思います。寄り添う人の心と体も明るく元気でないと支援ができにくいと思います。明るく、元気に過ごしたいと思います。また、自分を見つめ直す良い機会になりました。

○ 子どもや親と話す時には、自分が喋るのではなく、まずは最後まで相手が言うことをしっかりと聴く姿勢が大切であることを学びました。不登校の悩みのお話し合いでは、不登校や引きこもりの子ども達が小学校から20歳代まで年齢が幅広くおられました。小学生から中学、高校、大学の生徒や学生が不登校になっていると思っていたのですが、生徒や学生だけでなく社会人の子どもが引きこもりになっていることを知りました。そのような子どもをもつ親の方たちが、今回勉強しておられることが分かり、親が前向きに頑張っている姿を見て感激いたしました。今後、「自分が話すのではなく、相手の話を受け止める」という教えを心に刻み、サポーターの活動に努めていきたいと思っています。

○ 長年生きてきたが、毎回、自分の目は少しも見えていなかったことに気付かされ、先生のお話は、「目からウロコ」の連続でした。民生委員として、一社会人として、これから大きな視点でものごとに取り組み、他人を助けて自分も救われる人生にしたいです。